

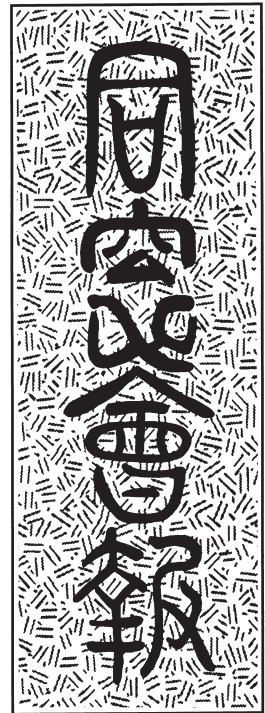
同窓会は鳥羽小を応援しています

平成20年4月6日 入学式



5月24日 鳥羽リンピック

鳥羽っ子の幸せと夢の実現のために



平成21年3月
第18号
鳥羽小学校同窓会
印刷：(有)平田印刷



新入会員紹介

〔平成20年度卒業生〕





ご挨拶

同窓会長 福谷 洋
(昭和27年度卒)

鳥羽小学校同窓会員の皆様には、ご家族お揃いで新しい年をおむかえの事とお慶び申し上げます。

さて、私共を取りまく状況は、昨年よりの世界同時株安、それに伴う急激な円高等の波を受け景気の大幅な落ち込み、その影響による雇用不安、政治の混迷等国内外共にあまり良いニュースのない年明けとなりました。

が伸び伸びと学習出来る事を願っています。

年頭早々暗い話題ばかりが報道されておりませんが、未来に希望と夢を持ち明るく毎日を過ごしたいと思えます。

当会報の発刊に際して、ご寄稿をご依頼しました方々には、快くご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

当会員の皆様方には、今後共母校並びに同窓会をご支援賜ります様お願い申し上げます。

最後に申しあげましたが、皆様方の益々のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。ご挨拶といたします。

また、児童の学習環境に於いても、校舎の老朽化、耐震構造不安等、枚挙に限りありません。



ご挨拶

学校長 橋本 須美子

世界恐慌に匹敵するという経済 情勢の中、いったん転んだらすぐ

さまだん底まで滑り落ちてしまふ、今の日本は、「すべり台社会」だと言った人がいます。また、最近のわが国の現状を見ると、他の人の迷惑を顧みず、自分さえよければいいという風潮が広まり、深刻な事件が目立つようになってきました。何時になったら、明るい未来や人生の展望が描けるのかと心配にもなります。

さて、同窓会会員の皆様におかれましては、世相暗い中にもつつがなくお暮らしのことと思えます。日頃より、本校の教育に温かい想いでご支援を賜っておりますこと、心より感謝申し上げます。

『福井県の子ども達は、学力・体力ともに全国トップレベル!』このことは、新聞やテレビなどで報道されましたので、会員の皆様もご存知のことと思います。

福井新聞では、福井県の小中学生の特徴として、①宿題をしつかりする、②早寝早起きの習慣が身につけている、③地域の行事に参加する小中学生が多いことなど、家庭での生活指導が行き届き、教育環境が落ち着いている点が大きいことを伝えていきます。

今日、学力の向上と豊かな人間性を育む心の教育を充実させるこ

とは、学校にとつてきわめて重大な課題であります。だからこそ、学校は、子ども達に必要な「多様な人間関係」と「豊かな体験」・「社会性」などを身につけさせる場でありたいと思えます。

子ども達は、学校だけでなく家庭や地域社会で育てられていきます。新聞に掲載されましたように、教育環境が整い、子ども達の豊かな育ちを見守ってくださる土壌があるこの地域で、これからも今まで以上に、学校と地域・家庭が連携を密にしながら、体験や交流活動など具体的な取り組みを進めていきたいと思えます。

お陰をもちまして、今年度も、大過なく学校運営が終えられそうに喜んでおります。同窓会会員の皆様には、今後とも温かいご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員各位のご健勝とご多幸、そして、本会のみますの発展をお祈りしご挨拶とさせていただきます。





幟がはためく時

深水 幸雄

(昭和22年度卒)

『ふる里は遠きにありて思うもの』同窓会報の、原稿依頼と共に添付されてきた昨年の会報には、ふるさとを離れている人達の草稿が多い。私のように、この地に生まれ長男と云う宿命みたいなものを背負って、この地に終焉を迎えようとしている者には、故郷とは漠然としたものである。冠句、俳句を趣味として詠んではいるが想像の世界を詠んでいるだけで実感が湧いてこない。

奴は帰って来るだろうか、大阪の誰彼とは踊って飲み明かすのだと楽しそうに話している。フェリーが混むので乗り遅れたら夜明けかしになると云って十日には帰って行った。

しかし、私はこの「ふる里」について、一度だけ考え、行動した事がある。もう一昔前のことであるが、ある人の伝手で四国、徳島から、ひとりの青年が住み込みで手伝いに来てくれたことがある。私の仕事は、父の代より左官屋である。当時、忙しかったので随分と助けてもらった。この青年、八月になるとそわそわし始める。八月十二日から、踊る阿呆に見る阿呆の「阿波おどり」が始まるからである。友達の名前を言っ

私は、この青年を見て、ふと気が付いた。日本人の心の中には「祭」がある。「祭」がふる里ではないだろうか。子供達に「ふる里」を作ってやらねばならないのではないだろうかと思うようになった。昔のように、手作りの「おふくろの味」がコンビニに食われてしまった。隣り近所が疎遠になつた。山には獣達が我がもの顔で住み付いている。小鮒やめだが、泳ぐ小川さえ無くなってしまったのである。

昭和二十八年、秋、台風十三号が、百年に一回しかないような大雨を降らせ、村は一変してしまつた。秋祭まで後十日ほど。一生懸命練習して来た山車の出し物が、一瞬にして消えていった。その後、

四十数年、山車は宮杜の奥に眠り続けている。ふと見ると当時、主役だった青年達も、老齢を隠すことが出来ない歳になっている。亡くなった人達も多い。

今、昔のような「まつり」を起こさねば。三田の里から山車を引く「まつり」が廃れてしまうと、私の心が私を動かした。青年会(淳朴会)の会長さんと話をし、会員さんの理解を得ることが出来た。趣意書を書き、全戸へ配布したところ、これも又賛同して下さった。祭を経験した仲間で行った。祭を立上げ「まつり」への活動を始めた。

最初に取り組んだのが、子供達が打つ「跳ね打ち太鼓」。私達が小学校時代に打った記憶を掘り起こし、夏休みを利用して練習を始める。一年生から六年生まで大太鼓を打つ。練習はいつも賑やかであった。

二年目は、棒振りと棒振り太鼓である。棒振りの方は経験された方がいる。問題は太鼓である。皆んな亡くなって教える人が居ない。途方にくれていたが、幸いにも、山内にお一人健在されていた。お願いに行き、待つ事数日、待ち待った譜面が届いた。譜面には、

書いては消し、消しては書いてある。四十数年前の記憶をたどる難しさ、一字一字間違ひなく書かれている。ご苦労がしみじみと伝わってくる。教える方も、教わる方も真剣である。厳しい練習を重ねていた。いよいよ当日、四十数年ぶりに「山車」が目覚まし組み立てられた。見送りの幕も昔のままである。役員さん達は、綿菓子、鯛焼き、焼き鳥、金魚すくい等露店を組んでくれた。子供達の「跳ね打ち太鼓」の音が飛び跳ねる。棒振り太鼓が宮の杜を揺るがす如く鳴り響く。棒振りが打ち合うごとに歓声が上がる。子供も老人も、宮杜に集うみんなの目が輝いている。「まつり」は村の輝きである。子供達が、青年達が、自分達の手でふる里を作っていることを実感した。

そして十年余、毎年静かに絶えることなく歩んでいる。今年、山車の車輪が新しく作り替えられ、境内二十米ばかり動いた。私の手に山車を引く綱の感触が確と残っている。倦まず、弛まず前進を続けることは村人達の努力である。

太鼓を打つたり笛を吹いた子供達や青年が、たとえこの三田の里

を離れても、いつの日か、笛の音色が、太鼓の響きが、心の琴線に触れることがあれば有難いことであり、村を守っている人達にとつても幸せなことと思う。

人生には、色々な出会いがあ



紅

梅

高橋

強

(昭和34年度卒)

私達の世代は後年団塊の世代といわれたが、本当に子供の頃からすし詰め状態の学校生活であった。

昭和29年に入学したが、その年に鳥羽村など五つの村が合併して上中町が誕生した。全校児童数360余名、本校と麻生野分校、だけでは収容できず、廃校となった旧鳥羽中学校の校舎も使っていた。

麻生野分校は木造二階建てで、1階は講堂になっており真ん中に柱があった。2階が教室である。休み時間には「タモの木」と呼んでいた大木の下で遊び、小川で魚を追い掛けていたが、しばらくして新しい校舎が建った。

ぬか袋で教室廊下を磨き、花壇

る。ひとりの青年が、それとなく教えてくれたことが、今生かされていることに感謝している。(三田在住)

にはコスモスを植えた。前年には国鉄バスが開通し、未舗装の道には泥の深い轍ができた。先年、観光旅行で小豆島の岬の分教場を訪れたが、何とも雰囲気がよく似ていた。

私の育った海土坂には男の同級生が4人いて大の仲良しだった。サクリストだった竹内小太衛君は中学校の校長になり、魚釣り名人の西山力好君は土木事務所次長となり、泉坂憲一君はセキスイハイム取締役北大阪支店長となり、いまだに「ああ上野駅」を聴くと涙が出そうになるといふ。

私は大阪府警に奉職し、グリコ森永事件、暴力団抗争事件、西成騒動など大小さまざまな事件に遭

遇し、波瀾万丈の38年であったが、昨年退職した。

私達のクラスは熱心な幹事に恵まれて、節目毎にクラス会が開催されている。

平成19年には還暦クラス会と銘打って、澤本啓一君、南谷初男君、森下みさ枝さんらのお世話で今津のサンブリッジホテルに集まった。

福井の新屋先生が出席されたが教え子より若々しく、また、千葉県から山口さん、岡山県から佐々木次男君も駆け付けて、自慢の喉を披露してくれた。

毎年、盆には若狭カントリーで、中学校38年卒メンバーによるゴルフ親睦会を開催して楽しんでいるが、鳥羽からの参加メンバーが一番多く、宇野一美君や三宅悟君らが常連である。しかし無悪の野田栄喜君の腕には誰もかなわない。

ある日、大阪府警本部近くの「若狭」という居酒屋で「へしこ」を食べていると、ふと数ある鯖街道の中でも今ではめつたに人が通ることの無い、京都から根来へ出る針鉋越えのルートをバイクで走ってみようと思いついた。

奈良市の自宅から出発して鞍馬寺の前を抜け、花背峠、久多を過

ぎると目の前に百里ヶ岳が現れ、若狭は目前となる。

根来峠は険しく、人の気配が無い。一気に下るとお水取りの鵜の瀬に出る。

「京は遠うても十八里」といわれ、昔の人が鯖を背にしきりに通った峠に立つと、人は歳をとるにつれ不思議と望郷の想いが強くなることを実感させられた。今となると、吹雪の朝、マントを着て一列に並び、雪道を登校した冬の日や、コウボネの生える「えい」で鮒釣りをしたことなど、一瞬の風景がとて貴重で愛おしく思え、忘れることのできない心の原風景となっている。

ともあれ、故郷で在所を守り、伝統、文化を守ってくれている同級生の苦勞話を聞くにつれ申し訳ない気になる。

せめてもの思いから住まなくなった屋敷跡に桜、花桃、紅梅を植えた。そのうち春三月ともなると、お寺の下はピンクの花に染まるに違いない。待ち遠しいことである。(海土坂出身 奈良市在住)



へしことすしと近況

原 田 勇
(昭和38年度卒)

鳥羽小学校を卒業したのが昭和三十九年で東京オリオンピクニックのあった年ですから、四十五年前になります。今は東京の郊外に住んでおり、毎日満員電車で揺られて通勤しています。

最近では若狭の食材として、へしこが大人気ですが、私の勤務先でも例外ではありません。たまに送ってもらったへしこを勤務先に持っていくと大人気で皆が欲しがるとめ、持っていくときはこっそりと持っていくます。

へしこをあげると、すごい高級なものを貰ったという気になってくれるのでお返しをいただけません。最近いただいたお返しの品で優れものは秋田の梅干です。この梅干はハンパなものではありません。まず、サイズがすごいのです。通常の梅干の5〜6個分は優にあります。それに種がありません。また果肉がしっかりしていて、薄くスライスして食べています。なんでもこの梅は「なにわ梅」とい

う種類だそうで、たいへんおいしいものです。

このように、最近ではへしこを有力な武器として活用し、あちこちの名品をゲットさせていた、だいたいいます。(ちりとてちんのおかげです。)

子供の頃、へしこはこの家でも自家製だったと記憶しています。毎年田植えが終わった頃に、田鳥からおばさん(若い人もいらつしやったと思います)が鯖を売りに来て、その鯖でへしこを漬けていました。私は母が漬けていたとばかり思っていたのですが、実は田鳥のおばさんたちが漬けてくれていたそうです。(難しくしてろうとでは漬けれなかつたようです。)

そして、その魚の代金は米で払っていました。米が配給の時代でもあり、田鳥には田んぼが少ししかなかったため、お金よりも米が喜ばれたようです。母が、「なんぼやの」と聞くと、「米2升で

ええわな」といった具合です。ちなみにこの魚と米との物々交換は三十年くらい前までありました。私が結婚した頃、家内が魚と米の物々交換を見てびっくりし、すぐ実家に報告したことがありました。

その初夏に漬けたへしこを年末から翌年の春まで食べていました。考えてみると、冬の間は毎日へしこを食べていたような気がします。もちろん弁当のおかずにもしていました。(最近聞いたところでは、商品のへしこは一年から二年寝かせるそうです。)

鯖のすしは晩秋にへしこをあげて麹漬けにしたもので正月料理ですが、子供の頃は食べませんでした。当時は麹とごはんつぶの見た目と食感がダメでしたが、大人になつてお酒を飲むようになるとお

いしいと思うようになり、今では大好物です。(一時食べ過ぎてしばらく食べられなくなったこともありましたが。)

この鯖すしは、へしこほど誰でも食べるといふものではありません。十年位前に一度勤務先に持って行って出したことがありましたが、「ふなずし」と混同されたようでもあり、あまり好評ではありませんでした。ただし、へしこが人気になったことと、何よりお酒のつまみとしては最適なので、新年会用にへしこと共に持っていつて食べさせてやろうと考えています。食べた者がどういふ評価をするかということ、どんなお返しをゲットできるかが楽しみです。

(麻生野出身)

東京都小金井市在住)



小学生の頃

藤 田 明 美

(昭和44年度卒 旧姓 吉村)

近頃では珍しく雪と雷で新年が明けました。

鳥羽谷は、予想通り近辺のどこ

よりも雪が多くて周りが真っ白でした。「やっぱり多いな。」と言いつながら、実家に向かいました。

私の子供の頃は今と比較にならないくらい多くて、1メートルを超えることなんてざらでした。今のように除雪車を通るわけでもなく、朝早くから村中の人が雪かきをして、私達子供は細い道を倒れながら学校に行ったものです。凍った日は、田んぼの上を歩いたり、氷の上をすべったり、つらさをなめたり…。

1年生の時だったか、先生が校庭に水をまいておいてくださって、スケート場になったことがありました。みんなで手をつないですべったなあ。

家に帰っても、今のように入トープや暖房もなく、囲炉裏か掘り炬燵にすっぽり入って暖をとるしかありませんでした。今のようには部屋全体が暖かいのは本当に行きたくないです。法事なんかに行くといふ鉢がありました。がふだんは使っていないように思います。学校はストーブだったのでしょうか。3年生の時に新しい校舎に入ったので、暖房になったのかどうか思い出せません。

木造の校舎のことはあまり覚えていませんが、二つくつついた机で、一人が机のふたを開けると隣も開いて嫌だったことは覚えてい

ます。それと一緒に思い出すのは、九九が言えなかったのとハーモニカが吹けなくて残されたこと。あのハーモニカは口よりも小さい穴を吸ったり吹いたりして、しかも目に見えない。これを吹けとは2年生ながら理不尽な気がしていました。教員になって低学年を担任したとき、ハーモニカがピアニカに代わっていました。これなら私だつてできたと思いました。目で見えますから。

新しい校舎にはベランダがあつて、よく出ていた気がします。非常階段から跳んで遊んだこともあつたような。小学校卒業以来一度も中に入ったことがありませんが、1階には購買や和室、職員室などがあつたように記憶しています。ランチルームもできた今、ずいぶん変わっているのですね。

登校で思い出すのは霧。ちよつと先も見えないほど。今でもあるのでしょうか。昨年、名田庄に通勤しているときに同じような霧の中を走りました。あまりに懐かしくて、周りの人と鳥羽谷の霧について話しました。

帰り道で思い出すのは秋の稲木。道路の両側に立てられていま

した。あの稲の香りが好きでした。家でも稲を放りあげたり、稲刈りを手伝ったものです。

遠足や運動会など行事の朝は、なんとなく空気も違っている気がして、どきどきしたりうきうきしたり。遠足の前の日はおやつを渡されて大事に持って帰りました。うれしくてなかなか眠れませんでした。運動会の時は「すっぽんたび」とかいものを買ってもらつて、それを履くと速く走れそうなのがしました。

学校では先生が熱心に勉強を教えてくださったのに、今となってはほとんど思い出せなくて、思い

出すのはこんなことばかり。あのころは時間がゆつたり流れていたような気がします。

おい町に来て25年。鳥羽谷で暮らした年月よりもずっと長く過ごせるのも、私を育ててくださった鳥羽谷の自然や人々、そしてわが母校鳥羽小学校でお世話になった方々のお陰と感謝しています。自分が受けた恩恵を少しずつでも周りに返せるように日々精進していきたいと思えます。

(三生野出身 おおい町長井在住)



楽しかった思い出

田中卓子

(昭和54年度卒 旧姓 鳥羽)

同窓会報の原稿依頼と一緒に、昨年発行の第17号会報が送られてきました。ページを開くと懐かしい橋本須美子先生の笑顔がありました。「懐かしい、橋本先生、校長先生なんやなあ」が正直な感想でした。確か5年生で担任をし

ていただき、明るくて声が大きな、豪快で怒ると怖い先生というイメージです。悪さをした男子生徒が怒られ、大泣きしていたことを思い出します。その橋本先生が校長先生で、今も子供たちを指導して下さっていること、頼もしい限

りです。そして、会報の最後の方には同窓会役員名簿があり、その中にも懐かしい名前が何名か。みんながんばっているなあと感じると共に、自分たちがそういう年代にあるんだと実感しました。建物やグラウンドは綺麗に整備され、私達が通っていた頃とだいぶ変わっています。大きな鯉が泳いでいた池や、蛙やイモリのいた山すその小川もなくなっていることでしょう。

小学校の頃を振り返るといい事、嫌な事色々と思い出されます。私は3年生くらいに扁桃腺の手術をするまでは、すぐに熱を出す体の弱い子供でした。給食も全部食べきれなかったり、途中で熱を出しては早退してしまいました。早退の度に連絡を受けた母親が自転車で迎えに来てくれ、その自転車の後ろで泣きべそをかきながら母の背中につかまって帰ったものでした。

楽しい思い出は嫌な思い出の何十倍もあります。

大好きだったプール、走る前ドキドキした運動会、よい子の集いでは肝試しで三田の神社まで行き、暗い御堂の前には掛け算の問題が用意されていました。

お小遣い3500円で行った奈良・京都・大阪の修学旅行。

学校の行事だけではなく、集落でも楽しいことがたくさんありました。小原・南・山内のお寺の日曜学校では4月にお釈迦様の誕生を祝う花祭りがあり、子供たちは家や山で摘んだ草花を持ち寄り、ほんのり甘い甘茶をいただきました。夏休みにはお寺で一泊し夕食はみんなで作るカレーライス。2、3人のグループに分かれて近所のお宅にお風呂をもらいに行つて、あがつてくると冷たいコーヒータンブやジュースをご馳走になったこと、本当に楽しかったです。

今、私は小浜市伏原に在住し、中学2年生と小学2年生の子供の親になりました。伏原にも子供会はあり、愛宕祭りの子供みこしや地藏盆といった行事があります。子供の数は25名。ただ、私達の頃と大きく違う点は、半数は今富小学校で半数が小浜小学校に通っているという事です。行政区は今富区なので今富小学校に通うのが通常ですが、小浜小学校の方が距離も近く新しく引越して来られたご家庭などはどうしても小浜小学校を選ば

れるようです。

遊んでいる子供たちを見ていても、家はすぐ近くにあるのに同じ学校の子供同士でしか遊んでいない状態です。少し特殊な状態なのかもしれませんが、見えていて寂しいなあと思います。また、親同士も年に数回行事の時に顔を会わず程度なので行事にしてもいまひとつ盛り上がりに欠けます。

私自身がこんなに楽しかった



教員生活のスタート校・鳥羽小学校

松村伸之

(昭和54～56年度職員)

今から30年前。私は大学を卒業し、はじめて教師として教壇に立つことになりました。その学校が遠敷郡上中町鳥羽小学校でした。

私は、4年生27名の担任と校務分掌としては体育主任を任命されました。右も左もわからない私は少し不安をいだいていましたが、こども達の明るく元気な様子を見て、安心したことを今でも昨日の

ことを覚えているように、今の子供たちが大人になってから、楽しかった思い出をちゃんと思い出してくれるのかなあと少し不安です。同窓会役員名簿の中の友達が一生懸命頑張っているように、私も自分の子供たちが一つでも多くの思い出を残せるように、自分が出れることを一生懸命がんばりたいと思います。

(小原出身 小浜市在住)

ことのように覚えていきます。体育主任という立場から、こども達に接する機会は数多くありました。放課後の子供会のソフトボールの練習。地区の指導者の方も来て下さり、遅くまで練習をしました。こども達は目を輝かせながら一生懸命白球を追っていました。その成果もあって、地区で優勝し、遠敷郡大会に出場することができま

した。また、水泳の練習では、確かプールでの800m遠泳というのがあって、何回もプールを往復していた記憶があります。こども達は、プールの底に足が着かないよう必死に頑張って泳いでいました。連合体育大会の練習では、バトンパスの練習を何回も繰り返して、これも優勝カップをもらってきたように記憶しています。

ふだんの休み時間は、グラウンドでサッカーをしたり、体育館では卓球をしたり、こども達とはよく遊びました。特に卓球は私自身が好きだったので、よくやりました。色々な大会にも出場し、県大会でも上位入賞を果たしていました。今でも何人かが、卓球を選手或いは指導者として続けてくれていることをとてもうれしく思っています。1年中何らかのスポーツ

を通してこども達と体を動かしていたように思います。52歳になった今でも元気に体が動かせるのは、このような時間を過ごしたからだと思います。

素直で明るく元気なこども達、協力的で思いやりがあり実直勤勉な地域の保護者の方々、包容力があり優しい先生方に恵まれ、幸せな3年間を過ごすことができました。今もこども達との同窓会などで何回かは鳥羽を訪れることがあります。心から感謝して筆をおかせていただきます。(勝山市在住)



家族に感謝

片山 暢子

(昭和61年度卒 旧姓 森下)

小学校時代・・・楽しかったなあとふと振り返るチャンスを頂い

たことに感謝し、ペンを進めたいと思います。

今から思えば、小学校時代はあらゆるものから守られて生活していたことを感じます。自分が結婚し、家庭を持つようになり、そのありがたさをより一層感じるようになりました。何に守ってもらっていたか・・・それはやはり家庭です。お父さん、お母さん、おばあちゃん、朝起きればご飯が出てくる。うちのおばあちゃんには朝替える服が冷たくないようにとこたつで温めておいてくれる。「いつてらっしゃい」と必ず外まで出て見送ってくれる。帰ってくる時には家に必ず電気がついていて。何もしなくてもご飯もお風呂も用意されている。当時はそれがあたりまえと思いついてききました。でもこれはあたりまえではないのです。お父さん、お母さん、おばあちゃんが我が子、孫をかわいと思いい愛情深く育ててくれたからこそその幸せだったのだなあと思っています。お父さんは小さい頃からあまり家にいませんでしたが、外で一生懸命働いていることはわかっていました。その分、お母さんとおばあちゃんが二人三脚で私や妹達を一生懸命慈しんで育ててくれたのだと思います。だから家

はいつも穏やかで温かで心休まる所でした。こんな家、家族があつたからこそ、小学校時代は怖いものもなく、ただ本当に楽しかったのだと思います。今でも心から感謝しています。私達の子供時代は大人が大人であった時代だからこそ私達は子供として過ごすことができました。しかし現代では親が未だ子供であるという現象がよく見られます、そのため子供は早くから大人にならざるを得ないという状況が起こっているのです。

私は今、保育士をさせてもらっています。子供の一番近い場所です。子供の心に寄り添い、健やかな成長を支えながら毎日を送っています。どの時代も子供は変わっていかないと思います。変わっていると思えばそれは大人になりきれていない大人なのではないでしょうか。子供のペースより大人のペースが大事、子供より我が身が優先・・・いつしか子供は大人の目を見て行動をするようになり、本来の子供らしい心を殺して生きていくことになるのです。少なくともそういつた子供は増えてきていくように感じます。では今、私に何ができるのでしょうか。私にできることとすれば、私が小さい頃家族からもらった何とも言えな

い温かい愛情で包んであげることなのか．．．と思います。甘えたい時はいつでも抱きしめてもらえ、しっかりと話を聞いてもらえる。たくさんほめて認めてもらえる。いつでも背中を押してもらえているような安心感を与えてもらえる。こんな居心地のよい思いを一人でも多くの子供たちに感じてもらえるように日々努めていくことが今私にできることなのかと思います。小さい頃の何とも言えない温かい体験こそが、生きていく

原動力になることはまちがいありません。なぜなら、私が今こうやって元気に生きているのは、家族からもらったあふれる愛情のお陰だと思っております。お父さん、お母さん、おばあちゃん、本当にありがとうございます。これから私はたくましく生きていきます。そして微力ながら、一人でもたくさんの子供達の心にこの何とも言えない温かさを届けていけるようがんばっていきましょうと思います。

(大鳥羽出身 南前川在住)



踏み切り

香川 友里

(平成7年度卒)

最近JR西日本のCMで鳥羽の無悪が放送されている。TV、電車の広告などよく目にする機会が増えた。JR西日本の踏切事故防止キャンペーンのCMだそう。そのCMを見るたび鳥羽の事を思い出す。

「悪いことが無いと書いてさかなし(無悪)と読む」たわいもない

日常のワンシーンがCMの中にある。犬を連れただおじいちゃん「今日もよくがんばったのね」と最後に言うシーンが私はとても印象的だった。くしとるのおとうのは鳥羽の方言だ。(…と思う。大阪の人は使わないので。)鳥羽の良い部分をとってもよく表しているCMだと思う。

私が都会と呼ばれる場所に出てきて早7年が過ぎようとしている。忙しい毎日に追われ時間や、曜日の感覚さえも段々無くなっていく。同じマンションの隣人とも話をした事もない。顔は見たことがあるが、すれ違っても挨拶を交わすこともない。鳥羽では考えられないようなことがここでは当たり前である。

鳥羽にいた頃は、集落のみんなの名前を知っていたし、年の離れた方とも、もちろん挨拶もお話もした。自分のことも、「どこ(屋号)の誰(両親・祖父母の名前)のこの子」と言えばすぐわかってくれる。周りの大人みんな地域の子供を育ててくれた。はたしてこのようなことがここでは存在するだろうか？

隣人に殺されてしまうこの時代で、ここで生活している人達は、なるべく関係を持たないようにしていると思う。近所付き合いという言葉自体がここでは無くなってしまうように感じる。そんな中で今、私は生活している。段々その感覚に慣れていき、何も感じなくなってきた時、無悪のCMに出会った。初めてCMを見たとき自然と笑みがこぼれた。その

時スーッと心が緩んでいく様な感じだった。あの場所に帰りたい、心の底からそう思った。

悪いことがはびこっているこの時代に、あのCMの中みんなそんなことを微塵も感じさせない顔で笑っていた。万人に平等に流れているはずの時間でさえ、鳥羽に帰るとゆっくり流れているような気がする。

残業続きで疲れきっている時、仕事があまくいかなかった時、必ずあのCMが私の前に流れる。神様というものが本当に存在しているのだろうかと思いたくなるほどのグッドタイミングで。

あのCMを見るたびに鳥羽に帰りたくなる。日々の生活に疲れていた私にとってあのCMは一種の活力剤になっているのかもしれない。無悪、鳥羽を取り上げてくれたJR西日本に感謝したい。今度帰ったらあの場所へ行こうと思う。そしてあの踏み切りにお礼を言いたい。

(麻生野出身)

兵庫県芦屋市在住)

学校の近況

【学年別児童数】

	男子	女子	計
1年	10	8	18
2年	9	7	16
3年	11	11	22
4年	11	10	21
5年	10	10	20
6年	8	15	23
計	59	61	120

【集落別児童数】

	男子	女子	計
大鳥羽	9	3	12
上黒田	3	5	8
麻生野	5	6	11
海土坂	4	3	7
三生野	3	2	5
無 悪	2	7	9
三 田	6	4	10
小 原	4	5	9
南	1	2	3
山 内	7	4	11
持 田	1	1	2
長 江	2	8	10
朝 霧	12	11	23
計	59	61	120

【平成20年度 教育目標】

児童の幸せと夢の実現のために

めあてをもって、心豊かにたくましく生きる児童の育成

- ・自分で考え、よりよい行動ができる
- ・自他のいのちを大切にす
- ・人の話をしっかり聞くことができる

【主な行事】

4月	入学式・始業式・身体計測・交通安全教室・学校経営総会
5月	春季遠足・内科検診・学力調査・PTA奉仕作業・鳥羽リンピック
6月	避難訓練・プール清掃・ALT学校訪問・前期校内研究会・特別懇談会・プール開き
7月	民生委員と語る会・教育懇談会・終業式
8月	PTA奉仕作業
9月	始業式・自由研究発表会・鳥羽地区体育大会・PTAリサイクルバザー開催・秋季遠足
10月	町小学校陸上記録会・敬老会・後期校内研究会・修学旅行・校内マラソン・広葉樹植樹
11月	小中学校音楽発表会・特別懇談会・就学時健康診断・ALT学校訪問・器械運動発表会
12月	人権集会（高田稔浩氏講演）・学校経営総会・子育て講演会・終業式
1月	始業式・ALT学校訪問・学校給食週間・鳥羽っ子学習発表会・6年上中中体験入学
2月	とばっ子保育園（年長児）1日体験入学・スキー教室
3月	6年生を送る会・卒業証書授与式・修了式

平成19年度 鳥羽小学校同窓会決算書

<収入の部>

(単位：円)

Table with 5 columns: Item, Budget, Actual, Change, Remarks. Rows include 会費, 協力金, 寄付金, 雑収入, 繰越金, 合計.

<支出の部>

(単位：円)

Table with 5 columns: Item, Budget, Actual, Change, Remarks. Rows include 会議費, 事務費, 事業費, 会報, 教育振興, 予備費, 合計.

平成20年度 鳥羽小学校同窓会予算書

<収入の部>

(単位：円)

Table with 5 columns: Item, Budget, Actual, Change, Remarks. Rows include 会費, 協力金, 寄付金, 雑収入, 繰越金, 合計.

<支出の部>

(単位：円)

Table with 5 columns: Item, Budget, Actual, Change, Remarks. Rows include 会議費, 事務費, 事業費, 会報, 教育振興, 予備費, 合計.

平成20年度 鳥羽小学校同窓会役員名簿

Table of officers and board members with columns for Role, Residence, Name, and Name.

Table of officers and board members with columns for Role, Residence, Name, and Name.

編集後記

鳥羽谷の界限には、白梅、紅梅が咲き誇り今年も昔ながらの春の訪れを感じさせてくれております。一方では、いよいよ若狭舞鶴自動車道インターの建設工事が始まり、鳥羽の谷にも、嘗てない画期的な景観が造られようとしております。同窓会の皆様には、ご健勝で活躍の事とお慶び申し上げます。さて、この度当初計画致しておりました鳥羽小学校同窓会報第18号を漸く発行致す運びとなりました。今回の会報につきましては、1頁と12

頁をカラー印刷にさせて頂きました。何卒一読ください。また、内容につきましては、卒業生担任の先生並びに同窓有志の方々の格別なご協力のもとに掲載することとして、編集委員一同が会報の作成に当たってまいりましたが、何分にも素人には限界が御座います。至らぬ所も多々有ろうかと思いますが、何卒ご容赦くださいますようお願い致します。終わりになりましたが、会報発行にあたりご多忙の中ご支援ご協力頂きました皆様へ厚くお礼申し上げますと共に、会員皆様の益々のご健康とご隆盛を心よりお祈り申し上げます。(松宮記)

鳥羽谷で育む、心豊かな鳥羽の子

入学式



学校経営総会



春・夏2回の奉仕作業



町陸上発表会



町音楽会



マラソン大会



今川裕代コンサート



江崎浩司リコーダーコンサート



敬老会



夏休み自由研究発表会



器械運動発表会



鳥羽っ子学習発表会



子育て講演会



高田稔浩さんをお招きした人権講演会



スキー教室

